

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

筑後市長 西田 正治

市町村名 (市町村コード)	筑後市 (40211)
地域名 (地域内農業集落名)	筑後北地区 ( 一条、欠塚、赤坂 )
協議の結果を取りまとめた年月日	令和 6年 3月 19日 (第 1 回)

## 1 地域における農業の将来の在り方

## (1) 地域農業の現状及び課題

当地区は、主に認定農業者等が中心となり、非農家所有の農地や離農者の農地等を借り受けて耕作している。農業者の高齢化や後継者不足等により、担い手が減っており担い手の確保が課題となっている。また、地区全体のうち農振農用地は、欠塚地区のみであり、その他の一条地区や赤坂地区の農地は、すべて農振農用地区域外となっている。欠塚地区は、主にお茶の樹園地が広がっており、一条地区や赤坂地区は、主に普通作やWCS等が中心となっている。地区内の一部の農地は、大雨等により冠水するところも見受けられる。

## (2) 地域における農業の将来の在り方

お茶中心の経営に加え、露地野菜等の生産拡大を進めていき、複合経営の安定化を図る。また、各経営体の地産地消の取組みを今後も継続していくほか、6次化やブランド化等についても模索していく。

## 2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

## (1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	73.98 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	29.1 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

## (2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方

農業振興地域のうち農振農用地の区域

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
農地中間管理事業を活用し、担い手への農地集積を図る。
(2)農地中間管理機構の活用方針
離農する農家や規模縮小の意向のある農家及び個人間での利用権設定をされている農地については、契約の終期を迎え次第、農地中間管理機構を通じて集約を図る。
(3)基盤整備事業への取組方針
当地区は、基盤整備事業未実施地区であり、現時点では取り組む計画等はない。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
今後の担い手不足の解消のため、集落内の青壮年層及び定年退職予定者、新規就農者(親元就農等)を、将来的に地域の担い手として確保していき、農地の保全、経営の安定に繋げていく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
特に取り組む予定はなし。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input checked="" type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input checked="" type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④輸出	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨その他	

【選択した上記の取組方針】

- ・現在取り組んでいる減農薬・減肥料を引き続き推進する。
- ・担い手不足のため、省力化等が見込める機械の導入を推進する。